

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還）10

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43785

不才如内任一田中大任(一〇一六)

米
長
坂
一
郎

相
談

スタイナー会及内情について

44.10.16 田中

16日スタイナーよりラニチの招待を受け
 島法士のたのみの際先方から送られた三
 次の通り。
 沖縄返還交渉について昔田声明は核の非有
 を条件とせよとあり、日米間には経済
 問題特にお互いの利益あり、沖縄について
 野田内閣は昔田声明の字句は福田
 大蔵大臣の草紙の石の2千文した程度で
 よいであらうか、戻便問題については
 運の必要あり、^(米側は米理取組と見なす)
 議会の圧力あり、
 大統領としては日米関係の重要問題
 處理について全体の姿の整理とわたり
 いかんにかを核対し沖縄返還特核
 の問題について最終決定を行いたいと思
 います。
 日防省は核外交を以て互利である軍には
 は軍事的立場からかかる態度を以て当然
 である。日防省は政治的観点よりこの問題
 を考えたり、自分の経験でもワトハウス

十月十七日の中大領事館

は日米関係の対等な般的考慮よりこの問題
 核対し、又大統領自身日米に知り、
 核についての特殊事情についての過激さ
 もつた。然し大統領としては上道であり、
 日米間の諸問題の10に1又全体として
 この際、核の非有を前提とし、一帯の
 前途について核の處理について決定
 を行なうこととなる。
 (鶴岡防省より米側への態度を保留するかの
 点につき) 最も重要な問題は、両政府首魁
 に決定してもらうことには、但し
 日防省としては日米関係の他の諸問題に
 ついての見過しめを以て大統領への進言
 をし、米側は「若くは否、」と云う
 二次官は大統領の信任が厚い。従って
 この問題は他の諸問題についての見過し
 めのつくと、と「タイミング」において関連性
 をもつ。(スタイナーは経済問題について
 12日12日米側、向き盛人は打撃して
 いたが、米は関連し、核の問題について
 同人のメリットを以て各々格とあり

ニカエ 之ニ12 気を引きくという態度の見ら
れぬ。尚 15日 衆議院の席上^{お前中の}口務省
は核の問題は目下ジョンソン次官の推つた
方針ありと述べ 事務当局と12日 政府の
リフトアイコンをなしかりぬ^ぬと述べたが
(万が一核の行を話し合ふことにならぬ)
(^{その際} 衆議院外相答弁は新聞の核の問題
は緊急時持込のラインに2 處限するとの
記事に掲載した~~こと~~ こと12 日(英)にて)ニカハ
政府筋より流したものでなく ス^クキ^クシ^クと
思ふ。曾て口務省で各種の案を核は
したかニカハ 其の一つである。又ニカハ同日
声明で處限する、別途の合意を必要とせし
は同日声明の表現如何次第に甘りぬ。
(尚 ス^クキ^クは 衆議院の核問題は NATO と日英
とは口務省の違つて考へるに非ざらぬと述べたが
以上述べたところは 日人の在英行代の
経験上の考へ方であり、最近 核の問題
はつね(万が一の刻令に接して)と行使
の傾向は否に非ず、(万が一)と来ると
と答へ 最近^{その} 衆議院知内の事情は承知して

GA 6 1) 在りとの印象を授けぬ。 外務省